

氏 名：小林真朝

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第114号

学位授与年月日：2013年9月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 教授 麻原きよみ  
副査 教授 田代順子  
教授 中山和弘  
教授 廣瀬清人

### 博士論文審査結果

審査日：2013年7月26日

研究科委員会提出日：2013年9月 日

看護学研究科博士後期課程	氏名 小林真朝
専攻分野	地域看護学
論文題名	中高年地域住民における犬飼育・非飼育と健康と地域参加の関連
審査委員	職名・専攻他 氏名
	主査 教授・地域看護学 麻原きよみ
	副査 教授・看護学研究法 田代順子
	副査 教授・看護情報学 中山和弘
副査 教授・看護心理学 広瀬清人	

審査の合否および評価 (合)・否

本研究は、中高年者の犬の飼育と健康認識および地域への参加がどのように関連しているのか質問紙調査によって明らかにし、公衆衛生看護実践への示唆を得ることを目的として実施した。審査では以下について議論され、修正または追加記載が求められた。

1. 本研究の目的について、犬飼育の有無による違いを記述することが目的なのか、犬飼育の有無と健康認識と地域参加に関するモデル構築であるかが明確でない。また、論文題目も含め、目的の記載をより具体的にするとともに、「地域住民」を使うのか、「健康」か「健康認識」かなど、使用する用語についても再考すること。目的を明確にして、それに基づいて序論から考察まで一貫した記載が必要である。また、動物との共生社会を前提とする論文である。それがわかるような記載が必要である。
2. 犬の飼育群の方が健康認識や地域参加が高いことを前提とする記載になっている。ネガティブな結果も含めて解釈すること、また用語の使い方や表現にも注意した記載が必要である。

3. 犬飼育群の方が健康認識や地域参加が高いことを示す明確な結果がみられない。さらに解析を進め、犬飼育が健康認識や地域参加に関連するのか、たとえ関連がみられない場合でも、犬飼育群と非飼育群の属性の違いを明確にすることでその理由を検討する必要があるだろう。
4. 分析および結果の説明・解釈について追記する必要がある：「1日のうち犬とかかわる時間」は回答者の認識により異なることの限界への記載、犬の飼育と属性との関係に関する分析を行った理由、本研究における位置づけの明確化、犬飼育群の「密接飼育群」と「通常飼育群」の実際の行動や生活における違いの明確化。
5. その他、説明の追加や修正、表現や記載の修正。

以上の指摘に関しては、審査後に修正・加筆が行なわれ、審査委員から確認された。

国民の20%を占める犬飼育者は、公衆衛生看護の対象としてすでに無視できない大きなサブコミュニティを形成している。本研究は、公衆衛生看護実践との接点から犬飼育者の健康認識と地域参加について明らかにしたわが国初めての研究であり、今後公衆衛生の一領域として認知され、研究の促進および実践への貢献など、本研究の今後の発展性が大いに期待される。本研究者は、公衆衛生看護の新たな領域に体系的な方法で探究的に現象をとらえよう果敢に取り組んだ。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。